

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253 1口500円にて毎週受け付けています。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★鈴木牧場・新牛舎応援基金 500255 1口500円で期間中(期間:2024年4月2回～2025年3月4回)は毎週募金できます。
★脱原発と暮らし見直し委員会「12年のまとめ」の印刷カンパ 500256 1口200円で毎週受け付けています。



News Letter

2024年10月2回号発行:常総生協広報G 2024.9.23

～命をつなぐ地球環境を！～ 9.16さようなら原発全国集会に参加しました



「さようなら原発集会」の始まりは、福島原発事故があった2011年。落合恵子さん、澤地久恵さん、鎌田慧さん、故大江健三郎さん、故坂本龍一さんらの呼びかけからスタートしました。以来、毎年春と秋に開催され、今年9/16（祝）は、東京の代々木公園に5,000人（主催者発表）が集いました！（コロナ後、徐々に参加者が増えています）

ステージでは、オープニングライブ（シンガーソングライターの片平里菜さんの♪風に吹かれて♪がとても素敵です）のあと、各地の原発立地から登壇者が壇上にあがり、反原発のスピーチをしていきます。今回は、女川（宮城県）から多々良哲さん、福島から「これ以上海を汚すな！市民会議」の織田千代さん、「3.11甲状腺がん子ども支援ネットワーク」から阿部ゆりかさん、東海第二運転差止訴訟団（事務局：常総生協）からは原告団世話人の相楽衛さんが登壇（写真：赤い幟の前でスピーチ）。組合員の清水さんは横断幕を、入江さんはのぼりをもってステージで再稼働阻止の訴えをしました。

2024年10月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●

○「常総っ子応援団」jin流星台プレイパーク:毎週木曜日10:00～14:30
活動中です！（出入り自由）
※毎月第3土曜開催の歴史講座は諸事情により終了となりました。
長い間ありがとうございました。

・9/28臨時総代会は延期となりました

○提携・協同・連帯企画●

・9/29JCO臨界事故25周年集会@東海村

さようなら原発集会 参加報告



常総生協と原告団で出店。
クーロンヌさんのパン(140個完
売!)と、福島県二本松の有機に
んじんジュースを販売しました!

組合員の入江たけしです。代々木公園にて行われた「9.16さようなら原発全国集会」に参加してまいりました。集会は今まで何度も参加しており、その度に各地の運動の状況を知ることができますし、最後は東京のど真ん中をデモ行進しますので、たくさんの若い方々にアピールも出来て、とても良いと思っています。集会中、壇上に上がって、原告団世話人である相楽さんが東海第二差止訴訟団を代

表して報告を行いました。防潮堤工事の不備についてや、日本原電が地域住民に対して行っている説明会での不誠実な対応、これらにより今も変わらず東海第二原発が再稼働には不適切であること、そして我々が再稼働を止めるために裁判だけでなく様々な運動をしていることが伝えられました。出店したテントではみんなで協力してパンとにんじんジュースを無事完売することができました。集会が成功することはとてもいいことです。このような集会が必要なくなることは、さらに良いことです。日本原電は、敷地内に活断層があることから敦賀原発2号機(福井県)の再稼働も行き詰っています。このまま最後までみんなで協力して、原発のない安全安心な暮らしを勝ち取りましょう!(元職員・現組合員入江さん)

9月16日は「さようなら原発」。代々木公園は全く初めての場所で、しかも午前中抜けられない用事があり、ちゃんと着けるか不安でした。何とか到着できたのですが、すでに東海第2原発のスピーチは終わっていて、Fridays For Future Tokyoの大学生たちのスピーチが始まっていました。代々木公園B地区は思ったより緑が多く快適でした。9日にいらしていた方と思いますが、見たことがある方や入江さんとお連れ合いにも紹介していただきました。お二人で政治の話ばかりしていると言われていて、好しかったです。

デモに出る人たちは二手に分かれて、労働組合系の方が多く、市民団体は少ないというのが気になりましたが、大勢の方が参加されていました。

私はフットワークが重く、いままで遠慮して行ったことがない場所に、続けて出かけたのは不思議なのですが、気になっていたことで、思い切って行ってよかったです。東海第2原発、福島よりずっと近く、しかも老朽化。再稼働したらほんとに怖いです。

(理事 森 博子)



常総生協に関わるみなさん、こんにちは(^^)
ハチドリ仲間(南米・先住民の昔話、森の火を消そうと
小さな嘴・くちばしで水を運ぶハチドリのお話より)をつなぐ
新しいコーナー「ハチドリ・レター」です。
今週は理事の森博子さんと監事の松田ミカさんからです♪



9月9日、東海第2原発運転差止訴訟の控訴審、第4回口頭弁論を傍聴してきました

報告(1) 理事 森 博子

常総生協が事務局を務めている裁判ですが、これがはじめての傍聴です。東京高裁は霞が関の官庁街の農林水産省の隣にあります。ちょうど2週間前の8月26日、監事のSさんの夫君が原告になっている阿武隈会裁訴訟の東京高裁公開弁論があり、その傍聴に来ていたので、地下鉄霞が関駅の階段を上がって、どっちに行けばいいかはわかっていました。が、慣れてない場所です、しばらくは方向があっているかどうか不安でした。1時から門前集会があるので、人が集まっているはず、と前方に、集合している人々がみえたのでほっとしました。



さて、2時に始まった裁判では、弁護士3人が次々に準備書面に沿って

- ① 高エネルギーアーク損傷とホットショートからみる本件発電所の危険性
- ② 一番被告原電の拡散シミュレーションの問題と一番原告側の現実的シミュレーション
- ③ 地震と地震動についてその1

を、1時間のうちにパワーポイントを使いながらプレゼンされました。見るからに難しそうなタイトルですが、前夜の睡眠不足と食事の後ということもあり、頭がクリアーなら、もう少しは理解できたのではないかと反省しました。その後15分ほど歩いたところにある、全日通霞が関ビル8Fで報告集会・記者会見がありました。次回12月の口頭弁論では東海村、日立市の避難計画がいかに不備かを現地の原告に訴えてもらえればと大石さんは言われていました。(理事 森博子)

報告(2) 監事 松田ミカ

霞が関には初めて行きましたが、高等裁判所の隣の農林水産省の別館1Fにある「おむすび権兵衛」で、おいしいおにぎりを購入、お昼ごはんの準備は完璧です。

高裁前の歩道には原告や弁護士、支援者がすでに集まっていて、心強い。みなさんのスピーチを聞きながら開廷を待ちます。と、常総生協の旗が！さては職員さんかと思って声を掛けたら、元職員さんで、現・常総市議会議員の入江たけしさんでした。ありがとうございます！ 職員の木本さんは、事務局として傍聴券のご案内やスピーチをする大石さん(元・常総生協専務理事)たちの写真撮影等大忙しの様子です。受付を済ませて、いよいよ高裁館内へ。まずは手荷物チェック。特に何も指摘されず通過。ロビーで、理事の森さんと、水戸からみえた、原告の女性といっしょに腹ごしらえ。おむすび権兵衛のおにぎりはおいしかった♪ さて、いざ、大法廷へ。大法廷の傍聴席は満席。これが大切なんだとか。市民は関心を持っているぞ、という裁判官へのアピールになるのだそう。裁判官が法廷に入ってきて、みんなで起立、礼をして着席。スクリーンを使って、原告団弁護士より弁論が始まりました。内容は専門的で早口で、私には難しいものでしたが、裁判官は頷きながら聞いている。さすがだ。原告の資料の最後のほう、「被告は、本件発電所における基準地震動を策定するに当たり、最新の科学的・技術的知見に加えて被告の行った詳細な各種調査により得られたデータ等を踏まえ、地震動評価を行ったが、それでもなお、基準地震動を上回る強さの地震動が発生することを完全に否定しつくすことはできないことは認識している」というところは、意識すると「どんなにデータを集めて調査しても、それを超える地震がくることは否定できないこと、被告の日本原電も認識してるね。」ということでしょうか。印象に残りました。次回は12月25日に開催です。みなさま、ぜひ一緒に！(監事 松田ミカ)



* JOSO news letterは、常総生協のホームページのニュースレターの欄をクリックしてください。バックナンバーも遡ってご覧いただけます♪カラーでご覧いただけます(^^)
ハチドリ・レターについては、9月2回号に詳しく掲載されています。

愛媛・無茶々園の今年の柑橘についてのお知らせ（商品部・柿崎洋）



毎年、味の濃い美味しいみかんを私たちにお届けしている無茶々園。常総生協とおつき合いも40年近くになります。無茶々園は1974年に有機農業の研究園として全国からの若者が集ってスタートしました。今では、その第二世代や地域の内外、海外からも働く仲間が集っています。

他方で、無茶々園と取り巻く環境は大きく変化している様です。1つは地域の農業従事者の減少。みかんの生産者も激減しています。もう1つは環境。中でも害虫被害は年々ひどくなっています。

今年特にひどいのが「ミカンバエ」です。果実が小さいうちに卵を産み付け、収穫時に果実内部で孵化する厄介な虫です。毎年、無茶々園から常総生協へは、化学農薬無し〜減農薬（ネオニコチノイド系農薬を除く）の柑橘を届けて頂いていましたが、昨年に続きどうしてもネオニコチノイド系農薬を使わざるを得ない状況とのことです。

※ネオニコチノイド系農薬

- ・ネオニコチノイド系農薬は、国内では主にお米の「カメムシ防除（殺虫）」に広く使われています。
- ・生き物の神経系（アセチルコリン受容体）に作用し、神経伝達物質の動きを阻害します。
- ・農薬の使用量が少ないため、農薬販売会社では「エコな農薬」として広めましたが、他方でミツバチが帰巢できなくなる影響や発育過程の子どもの脳神経にも影響がある事が報告されており、EUや韓国、アメリカでも禁止の動きです。常総生協でも要注意農薬として注意喚起し、果物を除き野菜と米では使用しないことになっています。

この間、無茶々園の生産者事務局と「何とか使わない方法は出来ないか」協議してきましたが、地域全体での対応が今年はどうしても必要である事、代替できる策が現状無いとのことでした。

「今期のみかんは扱わない」という方法もあるかもしれませんが、それでは地域の経済が立ち行かなくなりそうです。

生産者も苦渋の決断ですが、今季の下記品目についてはネオニコチノイド系農薬を使用しますので、ご判断いただきご利用くださいます様よろしくお願い致します。

■対象の柑橘（7〜8月にかけて果皮の厚みが4mm以下の柑橘）

- ・温州みかん
- ・愛媛果試28号（紅まどんな）
- ・ポンカン

無茶々園からお手紙を頂きましたのでご一読ください。

常総生活協同組合 組合員のみなさま

いつも無茶々園のみかんをご利用いただき、誠にありがとうございます。季節が巡るのは早いもので、もうすぐみかんシーズンの到来です。美味しい果実を消費者のみなさんにお届けできるよう、無茶々園の農家たちはこの一年を通して農作業に励んできました。柑橘が実を結ぶのは一年に一度きり。その年の気候天候によって毎年同じものはできないのが農業の醍醐味。今年ならではの一期一会の風味を楽しんでください。

さて、今期の柑橘の生育状況ですが、昨秋の大干ばつによって樹がくたびれたこともあって残念ながら不作傾向。そのうえ、この夏は日照りが長く続いて「日焼け果」がたくさん発生しており、収穫量のさらなる減少が懸念されます。農家にとっては非常に厳しい作柄ですが、気候天候、自然現象ばかりはどうにもなりません。過酷な環境を乗り越えた果実をみなさんのもとにお届けするべく、できる仕事を愚直にこなすばかりです。

さて、昨年お伝えした「難敵病虫害」についてですが、いまだ収束する様子が見えていません。「難敵病虫害」とは、果実を食害したり、卵を産みつけたり、樹そのものを枯らしたりすることにより農家経営に甚大な被害を与える病虫害のこと。これらは有機農薬での対応ができず、放っておくと柑橘産業に深刻な影響を及ぼすため、無茶々園以外の生産者団体とも連携して地域全体での対策を行っている次第です。そのような背景から、今期も温州みかん・愛媛果試28号・ポンカンについては、ネオニコチノイド系農薬を使用したものをお届けすることになります。有機農業を志した私どもとしては苦渋の決断ですが、何とぞご理解いただけますと幸いです。

最後にあらためて無茶々園の栽培指針をお伝えしておきます。

- ①農薬の使用はゼロからスタートして少ない回数に抑える。
- ②農薬を使用する場合は有機栽培でも使用可能な農薬を優先して選択する。
- ③化学農薬を使用する場合も最低限度にとどめる。

上記のように無茶々園の柑橘は、農薬不使用から数回の使用までの栽培状況を包括して出荷に取り組んでいます。私たちは単純に「無農薬栽培という結果」をゴールにするのではなく、地域の多くの生産者に参画してもらい、生産者の経営が成り立つ範囲でそれぞれが病虫害のリスクに向き合って、地域全体として農薬の削減や環境に負荷をかけない柑橘栽培を続けていくことを目指しているためです。

いま、温暖化の進行や生産者の高齢化、作業にあたる人手の不足が進み、昔以上に農薬削減が難しい環境になっていることを実感しています。しかしながら、生まれ育ったこの地で未来に向かって営々と生きていくためにも、これからは見据えた地域農業の在り方を常に考えていきたいと思っておりますので、これからも何とぞお力添えのほどよろしくお願い致します。

農事組合法人 無茶々園